

NPOの はじめ方

天文の面白さ 感じて

Science Station 理事 藤原英明さん(22)

天文学の楽しさや面白さを後輩たちに伝えたい——。今年3月、東京大学で天文学を学ぶ現役学生らを中心に設立した。

東京大木曾観測所(長野県三岳村)が98年から年1回、高校生を対象に開いている天文体験セミナー「銀河学校」。その卒

業生らが発起人だ。東北大や日大、筑波大などの大学生や院生約10人のほか、教官も加わり20人程度で活動。▽高校への出前授業▽銀河学校の運営手伝い▽日本天文学会主催のセッション参加のための旅費補助——など多彩な活動を展開している。

2004年7月17日 毎日新聞

自分が受けた刺激や驚きを、年齢の近い僕らの言葉で後輩に伝えたい」と説明する。「NPO法人の看板があると公共施設が使いやすく、信頼も得られ活動の幅が広がる。わずかながら講義料もいただき、学生たちはさらに真剣に臨んでいる」。東京大大学院教授で、理事長を務める吉井譲さん(52)はNPO法人のメリットを強調する。

1日、立川高校(東京都立川

市)で行われた出前授業。生徒ら約20人を前に、メンバー3人が大学生活や宇宙などについて熱っぽく語りかけた。「分かりやすく伝える難しさを感じているが、研究を見つめ直す機会にもなり勉強になる。『天文って面白い』と思う高校生が1人でも増えれば本望です」と藤原さん。問い合わせは吉井さん(☎0422・34・5027)か同NPOのHPへ。

理事として学生をまとめる藤原英明さん(22)―東大理学部4年―も高校1年生で銀河学校に参加。作文で選ばれた天文好きの高校生約30人と一緒に、泊まりがけで最先端の天文学に触れた。特殊カメラで撮影した星座を初めてパソコン画面で解析。「天文に抱いていたロマンチックなイメージが吹き飛びカルチャーショックを受けたが、天文学を志す出発点になった。

「生の科学に触れてほしい」と話す藤原さん(左端)とメンバー

